

# MUIによる旧足尾銅山と塩谷核廃棄物処理場予定地調査

ハユ・プラヴォオ

2017年7月26日

インドネシア・ウラマー評議会（MUI）の自然環境・天然資源改善部会（PLH & SDA）は、① [栃木県日光市] 足尾地区の銅山採掘跡の復興と、② [同県] 塩谷町の福島原子力発電所による放射能汚染廃棄物の処理問題に関して、現場視察を実施する機会を得た。この調査は、2017年7月14日から18日、代表者ハユ・プラヴォオ（PLH & SDA 議長）によって実施された。調査には、イスラームと自然環境をテーマにした調査研究のためにインドネシアを頻りに訪問している2人の日本人専門家も同行した。青木武信・千葉大学客員教授（インドネシアを専門とする人類学者、インドネシア語が堪能）と阿久津正幸・NPO「足尾に緑を育てる会」（イスラーム史家、アラビア語が堪能）である。

この調査の目的として、日本の研究者は、これらの問題に関する宗教的な側面についての展望を得るとともに、日本における環境問題とその対策を国際的に広めることを期待した。一方でインドネシアの研究者は、日本が経験し、行ってきたことから何らかの有益なものを得ることを期待した。

## 塩谷町の福島原子力発電所の核汚染ゴミ処理

塩谷町は東京から150km、旧足尾銅山から40kmの位置にあり、人口は1万3000人ほどである。塩谷町も足尾も、ともに栃木県に位置する。塩谷町の7割は山地となっており、残りの平地で農業が営まれている。塩谷町は水源地を抱えることと、国内でもトップクラスの品質の米を産出することで知られている。さらに川釣や自然保養地としても有名である。

塩谷町で、私は町の運営する宿泊所に滞在した。この宿泊所は大変清潔で、設備は一般のホテルとは違ったが、寝室や浴室、食堂や施設の利用方法は日本の文化、そして日本社会の規律性に則ったものであった。その立地はとても美しく、釣りが楽しめる清流沿いに位置しており、広大な水田や山地の森林も周囲に広がっている。

福島原子力発電所で災害が発生したとき、上空に舞い上がった風によって核放射能が拡散され、塩谷町も含めて、放射能汚染を被った地域があった。すべての有害な核汚染物質は、現在は汚染された各県内で一時的に保管されている。

今回の訪問では、ほぼ丸一日、森林を出入りした。私たち3人は、町役場の職員である星さんの案内で、未舗装の林道に入り、核汚染物質の焼却炉と焼却灰の保管所建設のための詳細調査候補予定地を見学し、さらに一体の森林や川とその源流を見た。神に讃えあれ、この地はまるでTVでよく見かけるようなところだった。清流、連続する小さな滝、日本独特の四季折々の樹木、そして鳥たちなどである。この森は観光の対象地で

ある。キャンプ、急流や湖での釣り、ハイキング、サイクリング、バイク・ツーリングの対象地であり、さらには飲用可能な清水を汲みにも人々が訪れる。私もこの水を飲んでみたが、当然素晴らしいものだった。源泉はTVカメラで監視されており、この場所が日本でも最高の源泉の一つであることは疑いようがない。

栃木県によれば、環境省本省からの明確な根拠も示されないまま、塩谷町が誇りとし、地域社会の生活の足がかりともなる名水の源から近い場所が処分場の詳細調査予定として選定された。地域の住民によると、選定にあたり環境省は、この場所が全国名水百選に認定された名水の源泉に近接する場所であることを理解していなかった。

当然のことながら、こうした中央政府の計画は、地域社会や地元自治体の強固な抵抗に現在に到るまで直面している。提案されている代替案には、1000km以上の地下坑道をもつ旧足尾銅山での廃棄や[足尾調査時にそうした話があったことを現地で確認した]、福島県内での集積などがある。しかしながら現在に到るまで、決定は下されていない。

神のご加護により、今回の機会で、私たちは塩谷町の町長と面会して、直接話し合うことができた。塩谷町のもつ潜在力とともに、直面している地域の未来に対する深刻な問題について、世界が理解してくれることを塩谷町の住民がいかに望んでいるか、話を聞くことができた。

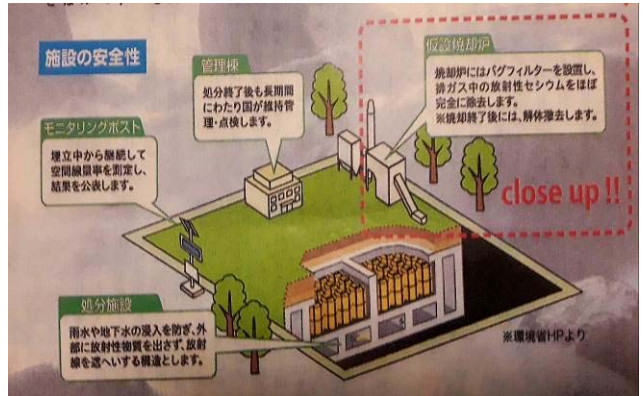
これは、[我々の暮らすこの]世界を守るための戦いであり、インドネシアでの原子力発電所建設計画について、我々にとっても考える材料となる。2011年1月、MUIのウラマー40人は、原子力発電所建設計画を支援すべく、インドネシア原子力庁を訪問したが、その当時、この計画は社会から多くの反対を受けていた。そして同年の3月、福島原子力発電所で爆発が発生したために、この議論は継続されなかった。しかし、2017年3月15日、インドネシア政府は、政府プログラムを推進するために原子力発電所建設を再び検討することとなった。再生可能エネルギー23%という目標の達成が困難になったからである。



ソーラーパネルと軽度の核汚染ゴミ



放射能の影響で多くの松の木が枯死



自然保護地域内に建設が予定されている、核汚染ゴミ焼却用の焼却炉と焼却灰保管所案



塩谷町長との面会



神道の宮司との面会

(終)